

甲府市議会「政友クラブ」視察研修報告書

報告者 末木 咲子
深沢 健吾
鮫田 光一

1. 日程

令和元年 7 月 1 日(月)～7 月 3 日(水)

2. 視察先・内容

- ①北海道旭川市 『旭山動物園について』
- ②北海道富良野市 『中心市街地活性化事業について』
- ③北海道千歳市 『千歳市防災学習センター「そなえーる」について』

3. 参加者 11 名

池谷 陸雄 荻原 隆宏 原田 洋二 鈴木 篤 岡 政吉
坂本 信康 長沼 達彦 小澤 浩 末木 咲子 深沢 健吾
鮫田 光一

【視察概要①】

①北海道旭川市

- (1) 視察日時 7 月 1 日 (月)
- (2) 視察場所 旭川市旭山動物園
- (3) 視察内容 『旭山動物園について』
- (4) 対応者 旭川市旭山動物園 主査 中瀬 泰広

【旭川市の概要について】

北海道の中央、上川地方のほぼ中央に位置し、雄大な大雪山連峰に抱かれ、石狩川と多くの支流が合流し、肥沃な盆地が広がり、年間の寒暖差、昼夜の寒暖差が大きく、四季が明瞭で冷涼な気候が特徴。

古くからアイヌの人々の営みと開拓の歴史によって、今日の旭川の基礎が築かれ、現在では、交通の要衝・物流の集積地として発展し、北北海道の拠点都市として、医療福祉施設、教育施設、文化施設などの都市機能が充実している。

近年は、航空路線の発展により、外国人観光客が増加しており、旭山動物園や雪質の良いスキー場などに、国内外から年間 500 万人を超える観光客が訪れて

いる。

●総人口 339,605 人

[旭山動物園の概要]

日本の動物園の中で、最北に位置している。動物の自然な生態が見られる行動展示を実施して一躍有名になった。

開園当初 40 万人ほどだった年間入園者数は、1996 年には 26 万人まで入園者数は落ち込んでしまった。これを打開すべく、行動展示を実現する施設づくりに着手し、同年には巨大な鳥籠の中を鳥が飛びまわる「ととりの村」が完成、翌年以降「もうじゅう館」、「さる山」、「ペンギン館」、「オラウータン舎」、「あざらし館」などを毎年のように新施設をオープンさせ、そのたびに入園者を増やしていった。

年間入園者数は、2005 年度には 206 万人、2006 年度は 304 万人を記録するなど、国内外からの観光客を中心として、この 10 年の間に約 10 倍の入園者数となり、北海道を代表する観光地として定着している。

[入園料]

区分	通常料金	市民特別料金
大人（高校生以上）	820 円	590 円
団体	720 円	490 円
おもてなし券（1泊2日券）	820 円（但し、初日正午以降、翌日正午までの入園に限る）	
動物園パスポート	1,020 円	
科学館共通パスポート	1,820 円	

[従業員数]

- ・正社員 31 名 園長（獣医）、主幹 1 名、管理担当 11 名
飼育担当 11 名（獣医 3 名）
- ・臨時職員 26 名 管理担当 13 名、飼育担当 13 名
- ・嘱託職員 6 名 管理担当 5 名、飼育担当 1 名

[行動展示]

日本の動物園で一般的な、動物の姿形を見せることに主眼を置いた「形態展示」ではなく、行動や生活をみせる「行動展示」が特徴である。

ペンギンのプールに水中トンネルを設けるなど、動物たちが動き、泳ぎ、飛ぶ姿を間近でみられる施設づくりを行っている。また、積雪時に限り毎日開催されるペンギンの「雪の上の散歩」や食事時間を「もぐもぐタイム」と称する催しも

行われている。このような展示方法は今後の指針として国内外の動物園関係者が視察に訪れるなど注目されている。



【施設案内図】

【かば館】

屋内の飼育場にある、深さ3メートルのプールで、水中のカバの動きを横、真下から眺めることができる。頭上をカバが悠々と泳ぐ姿は迫力満点。

野生のかばが暮らす環境に少しでも近づけるため、自然界でかばと同じ環境で生育しているダチョウとイボイノシシも「かば館」の中で過ごしている。

【ほっきょくぐま館】

水中を泳ぐホッキョクグマの姿を見ることができる人気のスポットであり、「シールズアイ」というカプセルの中から行動を覗き見することができる展示工夫もされている。



【あざらし館】

館内から「マリンウェイ」と呼ばれるガラス越しに巨大な水槽の中を泳ぐアザラシの姿を眺めることができる。アザラシは哺乳類なので、息継ぎのために上下運動をするという習性を利用した仕組みで、下から上へ、上から下へと、頻繁にアザラシが通り過ぎていく様子を見ることができる。

【ペンギン館】

毎年雪が積もった時期に開催される「ペンギンの散歩」は有名ですが、雪のない時期でも、愛くるしい姿や生き生きと泳ぐ姿を手が届きそうな間近で見ることができる。また、360度見渡せる「水中トンネル」では上下左右どこを見てもペンギンが自由に泳ぎ回っている姿が見える。



【旭山動物園入園者数の推移】

昭和 42 年度	458,208 人	平成 22 年度	2,061,519 人
昭和 50 年度	448,204 人	平成 23 年度	1,723,649 人
昭和 60 年度	536,091 人	平成 24 年度	1,625,975 人
平成 8 年度	260,822 人	平成 25 年度	1,650,057 人
平成 16 年度	1,449,474 人	平成 26 年度	1,651,430 人
平成 17 年度	2,067,684 人	平成 27 年度	1,521,662 人
平成 18 年度	3,040,650 人	平成 28 年度	1,431,335 人
平成 19 年度	3,072,353 人	平成 29 年度	1,429,618 人
平成 20 年度	2,769,210 人	平成 30 年度	1,371,199 人
平成 21 年度	2,463,274 人		



[まとめ]

園内の一貫したテーマは「伝えるのは、命」。というように、まさに動物たちが力強く生活し、生きていることを感じることでできる展示工夫があらゆる点で感じられた。地形を生かしながら、動物を上から、横から、下から観察することができる「行動展示」によって老若男女問わず、感動と新たな発見により動物園の概念を覆した動物園改革の成功事例として大変参考になった。

平成8年度には、入園者数が26万人と落ち込んでから、10年後の平成18年度には、10倍以上の304万人の入園者数への驚異的な変革には、市民や関係者の並々ならぬ努力や研究があつてのことだと感銘を受けた。

甲府市遊亀公園附属動物園も今年で100周年を迎え、新たな構想と共に、更なる市民に愛される動物園へと改革を控えながら大切な時期を迎えている。

あらゆるアイデアを集結しながら、この先の100年を見越した中で、市民、県民に愛される動物園に、そして全国に誇れる動物園へと生まれ変わることを期待していきたい。

【視察概要②】

②北海道富良野市

- | | | | |
|----------|-------------------|--------|-------|
| (1) 視察日 | 7月2日(火) | | |
| (2) 視察場所 | 富良野市役所、フラノ・マルシェ施設 | | |
| (3) 視察内容 | 『中心市街地活性化事業について』 | | |
| (4) 対応者 | 富良野市経済部中心街整備推進課 | 課長 | 黒崎 幸裕 |
| | 〃 議会事務局 | 庶務課長 | 高田 賢司 |
| | 〃 〃 | 庶務課 書記 | 倉本 隆司 |

[富良野市の概要について]

北海道のほぼ中央に位置し、富良野盆地の中心都市であり、テレビドラマ「北の国から」の反響によって多くの観光客が訪れるようになった。富良野市を含む1市6町村で「富良野・美瑛観光圏」を形成し、周辺地域を含めて北海道を代表する観光地となっている。

基幹産業は農業であり、野菜、稲作、畑作、畜産などを生産している。産業就業者数では、観光に関連した業種を中心とした第三次産業の割合が最も高くなっている。

全国的にも市町村魅力度ランキングではトップ10にランクインする都市になっているが、農業の後継者不足をはじめ、人口減少にどう取り組んでいくかが今後の課題とされている。

●総人口 22,720 人

[新中活法に基づいたまちづくり会社による事業展開]

平成19年5月1日 北海道社会事業協会富良野病院移転



病院移転に伴い、空き地・未利用地の大量発生

富良野中心市街地の課題として

- ・売り上げ減・後継者難・店舗の減少 (にぎわいの喪失)
- ・空き地・未利用地の増大 (地価の下落)
- ・まちなか居住者の減少 (コミュニティの崩壊)



まちの顔であるべき中心市街地が元気にならなければ未来が開けない!

【まちづくり会社を中活事業の推進母体に】



TMOまちづくり会社のディベロッパー化

まちづくりをビジネスに増資が必要

『ふらのまちづくり(株)』

H15・10・28 設立 資本金 1,035万円 (19権利者)

H19 資本金増資 8,350万円 (59権利者)



- ・商工会議所会員を中心に64の企業・団体・個人が出資
- ・商工会議所役員で経営責任を持つ体制



内閣府との交渉の末、中活認定を受ける

[フラノ・マルシェ開発事業]

1. 施設の目的

中心市街地に観光客の取り込み拠点をつくり来街客を増やし「まちなか観光」の情報機能を充実させ、商店街と連携を図りながら街中回遊を促進し、歩行者数の増加を目指し、中心市街地全体の活性化につなげることを目的としている。

2. 構造・規模 S 造平屋建て 2 棟 (3 軒)

3. 屋根 ガルバリウム鋼板防水

4. 外壁 ガルバリウム鋼板張り

5. 敷地面積 6,634,16 m²

6. 延べ床面積 1,336,01 m²

7. 駐車場 93 台 (車いす使用者駐車場 2 台)・駐輪場

8. 事業費 施設整備費 279,825,000 円

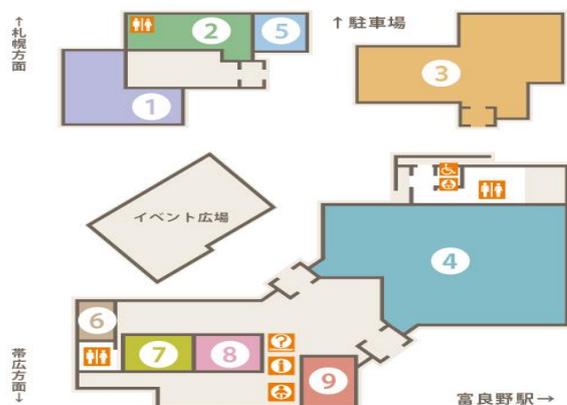
(1) フラノ・マルシェ建設工事 (建築) 244,650,000 円

(2) フラノ・マルシェ建設工事 (外構) 35,175,000 円

財源内訳 国庫補助金 130,463,170 円

金融機関貸付金 145,000,000 円

自己資金 4,361,830 円



施設マップ



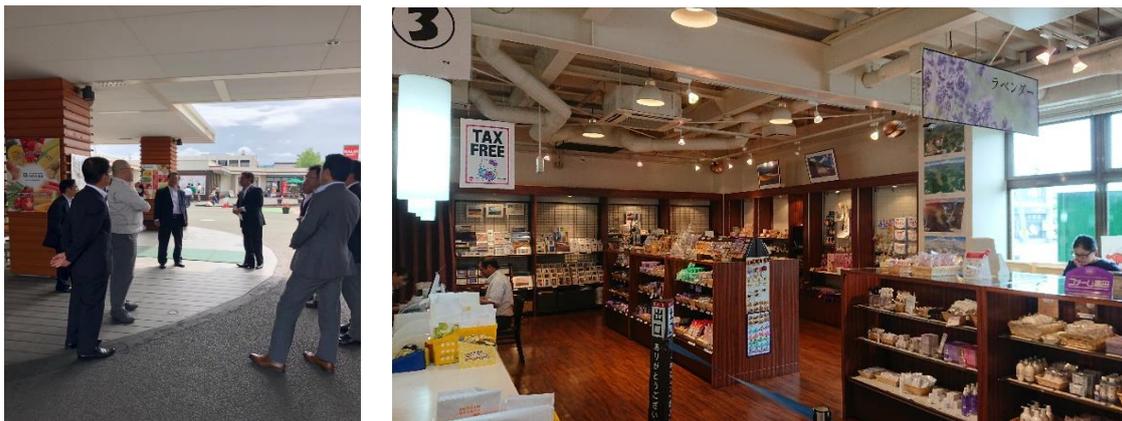
[フラノ・マルシェとは]

フラノ・マルシェとは富良野市中心市街地活性化基本計画のコンセプト「ルーバン・フラノ」構想に基づいて計画された活性化施設の名称。

〈コンセプト〉

1. 何よりも富良野市民が「地元の食文化」を楽しむための空間であり、大勢の市民が集い、語らい、このまちに生きる楽しさと豊かさを享受する「市

- 民憩いの場」であること。
2. 「富良野の農と食の魅力」を内外に発信し、観光客や日々の交流者を「まちなか」へといざなう「おもてなしの拠点」でもある。
 3. そこに集う人々に、様々な「まちの情報」を提供し、まちなか回遊へとなぐ「まちの情報発信基地」である。
 4. 市民・商業者・観光客など、大勢の人々が自由に集い、交流の輪を広げる「まちの縁側」である。



[入場者数及び売り上げの推移]

年度	入込数	売上高（税抜き）
2010年度	555,000人	492,000,000円
2011年度	668,000人	512,000,000円
2012年度	745,000人	511,000,000円
2013年度	795,000人	553,000,000円
2014年度	851,000人	590,000,000円
2015年度	1,181,000人	733,000,000円
2016年度	1,214,000人	727,000,000円
2017年度	1,222,000人	734,000,000円
2018年度	1,205,000人	724,000,000円



[まとめ]

富良野の知名度を広めたのは倉本聰が描いたテレビドラマの影響は大変大きく、ドラマ放送後は観光客も2.5倍にも膨れ上がった。しかし、まちの商店街への恩恵は少なく、滅びゆく商店街の再生をテーマとし、富良野という魅力的な素材を発信しながら長年にわたり市街地の活性化が課題とされてきた。

こうした中、平成19年の病院の老朽化に伴う移転を好機と捉え、病院跡地2,000坪を有効活用し、まちの活性化に繋げようと病院跡地利用計画を住人、商工会が中心となって作成し、資金集めも行った。

「フラノ・マルシェ」は、わがまち富良野をこよなく愛する市民の発案と行動力によって誕生した「民間施設」であり、中心市街地の活性化を実現しようと熱意ある、志ある人々が立ち上がり、幾多のハードルを乗り越え、市民や観光客に愛され、親しまれる施設となっている。

この施設による経済的な波及効果も大きなものとなり、富良野市の路線価は6年連続で上昇していることから「富良野ブランド」構築に大きな役割を果たしたと言っても過言ではない。

本市における中心市街地においても、市民、行政が知恵を出し合いながら、どれだけ熱い思いを持って活性化に取り組むのかが重要ではないだろうか。また、目指しているのは通過型の「道の駅」ではなく、富良野ならではの「食文化」を通じて、誰もが集い、地元人と来訪者が楽しく交流する「まちの縁側」というコンセプトがしっかり反映された施設配置も印象的だった。

【視察概要③】

③北海道千歳市

- (1) 視察日時 7月2日(水)
- (2) 視察場所 千歳市防災学習交流センター

(3) 視察内容 『千歳市防災学習交流センター「そなえーる」について』

(4) 対応者 千歳市防災学習交流施設 施設長 橋本 悟志

[千歳市の概要について]

石狩平野の南端に位置し、札幌市や苫小牧市など4市4町に隣接し、札幌市へは快速エアポートの利用により30分で到着できる。

市域は、東西に細長く冬期間は積雪1メートル以内で北海道の中では比較的雪の少ない地域である。また、年間を通じて南北に風が吹く日が多く、自衛隊管理を含む空港の滑走路4本は全て南北に延長されている。

市の東部は丘陵地帯で畑作や酪農などの農業が盛んであり、中央部はほぼ平坦なことから、市街地をはじめ、工業地帯、空港、防衛施設、農地などに活用され、西部には周囲40キロ最大深度360メートルのカルデラ湖である国立公園支笏湖が位置している。

支笏湖は、日本最北の不凍湖として知られ、透明度が高く水質は11年連続で日本一を継続中であり、貯水量は琵琶湖に次いで国内2番目となっている。周辺には温泉宿やホテルが点在し、インバウンドを含めた観光客が雄大な自然や各種イベントのほか、釣り、カヌーなどのレジャーを楽しむ観光地として賑わっている。

●総人口 96,480 人

[そなえーる施設建設の経緯と目的]

千歳市は、自衛隊施設が市街地の三方を取り囲むような形で、北東に陸上自衛隊東千歳駐屯所、南東に航空自衛隊千歳基地、南西に北千歳駐屯地が位置し、市街地の縁周部には装軌車両の戦車が頻繁に通行する、延長約10キロの公道、通称「C経路」が東千歳駐屯地と千歳駐屯地を結び、さらに奥の北海道大演習場に繋がっている。

C経路は、一部住宅を通り沿線住民から騒音・振動による被害などが寄せられていたことから、沿線地域の活性化や生活環境についての改善が求められていた。

こうした中、国は平成14年に防衛施設周辺地域の発展に貢献する高額の補助制度として「まちづくり構想策定支援事業」を新たに創設したため、C経路沿道の課題解決を図るとともに、市の総合計画に位置付ける防災対策の推進や自主防災組織の充実などの観点から、防災学習交流施設の整備が決定した。

防衛設備と共存した災害に強い安全なまちづくりを進めることで、防災学習交流施設は平成22年4月24日にオープンとなった。



[施設の概要]

総面積約 8.4ha で A・B・C の 3 つのゾーンとなっている。

〈A ゾーン〉

広さ 4.3ha で 3 階建て延べ面積約 2,300 へーホーメートルの防災学習交流施設「そなえーる」をはじめ、広さ約 2.4ha の防災訓練広場、ロープ訓練棟、防災備蓄倉庫を兼ねた副訓練棟、常設ヘリポート、駐車場などを完備

〈B ゾーン〉

「学びの広場」は、広さ 1.1ha、造成に伴う雨水調整池と消火体験や救出体験を通じ、自助・共助を学ぶ広場

〈C ゾーン〉

「防災の森」は、広さ 3ha で約 150 人がキャンプに利用できる「野営生活訓練広場」と調整池を兼ねた「多目的広場」、さらに、アスレチック遊具などを備えた「サバイバル訓練広場」、「土のう訓練広場」など、共同作業が体験できる広場



[施設の運営管理]

- ・施設の管理運営は、再任用職員 1 名、第一種非常勤職員 4 名、臨時職員 5 名の 10 名体制
- ・運営時間は、朝 8 時 45 分～夜 9 時までとし、屋内訓練室と防災訓練広場は貸し出すが、展示場の開館時間は、朝 10 時～夕方 5 時



[事業内容]

- ・千歳市総合防災訓練や町内会
- ・自主防災組織等による消火・救出時の防災訓練、救急救命率向上への救急講習会
- ・市民を対象とした千歳市民防災講座や町内会
- ・自主防災組織及び事業所を対象とした防災関連講座、防災イベントなど

[施設の利用状況]

平成 22 年度	37,644 人	平成 27 年度	42,027 人
平成 23 年度	58,393 人	平成 28 年度	39,526 人
平成 24 年度	48,615 人	平成 29 年度	41,891 人
平成 25 年度	47,484 人	平成 30 年度	36,063 人
平成 26 年度	44,399 人		



[まとめ]

千歳市防災学習交流センターは、「そなえーる」をはじめ、災害を「学ぶ・体験する・備える」をキーワードに、いろいろな災害の模擬体験をしながら、防災に関する知識の習得、災害発生時の行動を学ぶとともに、防災講座や救急講習、

自主防災組織の訓練など、防災学習の拠点施設として活用されている。

震度1～7までの揺れを体験できる地震体験コーナーや火災時に発生する煙をリアルに再現し、視界のない煙の中で避難行動を体験できるなど、展示や体験を通じて総合的に防災学習ができる施設となっていた。

近年、異常気象などにより各地で頻発している自然災害への関心を一層高めると同時に、子どもの頃から施設を訪れ、防災意識を育むことも重要であると感じた。視察当日にも小学生が見学を訪れ、楽しそうに、また、真剣に施設見学を行っていた。

本市においても、地域における自主防災組織の構築、地区防災計画の作成などが進んではいるものの、その実施や活用方法については課題が多いと感じている。

地域住民がイベント会場や集会場として集う場において、災害への意識を高めるとともに、災害について親しみ学ぶことができる大変有効な施設だと感じた。